

湖東・湖北

毎月第3日曜日発行

2021 10月号

Vol.143

毎日ナビ

毎日新聞湖北ブロック会 協賛

毎日新聞湖北ブロック会事務局 (毎日新聞長浜販売所)

滋賀県長浜市小堀町 347-5 TEL.0749-62-0954

制作/オフィスいしやま (毎日新聞大津販売)

湖北

東京オリンピックに水球日本代表メンバーとして出場した長浜市出身の吉田拓馬選手(27)が9月17日、長浜署の一日警察署長に任命され、長浜市役所で行われた秋の全国交通安全運動(9月21〜30日)の出勤式に姿を見せた。

吉田選手は警察官の制服をりりしく着こなし、あいさつに立った。五輪では米・ロサンゼルス大会以来となる37年ぶりの勝利(南アフリカ戦)に貢献したものの、予選敗退に終わった。吉田選手は「結果は残すことができませんでしたが、みなさんの声援が励みになりました」と感謝の気持ちを伝え、藤井勇治市長や細井久署長ら約30人から拍手が送られた。



中央(左)から、吉田拓馬選手、藤井勇治市長、細井久署長、交通安全運動一日警察署長、長谷川隆広氏

長浜

東京五輪・水球の吉田選手が一日署長に

湖東

彦根

市民会館解体へ幕57年の歴史に



57年の歴史に幕を下ろした彦根市民会館

57年にわたり住民に親しまれた彦根市民会館(同市尾末町)が今夏閉館した。市は10月中にも解体工事に着手する。約6000平方メートルの敷地は隣接する地権者の護国神社に返還される。

1964年6月完成の同会館は鉄筋コンクリート地下1階・地上2階(1部3階)建て。帝国ホテル新本館、高島屋日本橋店なども手がけた彦根市出身の建築家、高橋貞太郎(1892〜1970年)が設計した。総工費は約2億9000万円で、各方面からの8753万円に上る寄付金も寄せられた。

【彦根通信部・伊藤信司】

市民の手で守るオニバス城の堀で開花



開花したオニバス

国宝・彦根城(彦根市金亀町)北方の金亀公園管理事務所横の堀で今秋もオニバスが開花した。オニバスはスイレン科の一年草。本州、九州、四国の池や沼などで育ち、9月に赤紫色の花を咲かせる。都市開発に伴う埋め立てなどで自生場所は減り続け、今では全国で数十カ所程度といわれている。

オニバスには全体に鋭いトゲがあり、清少納言は「枕草子」で「おそろしげなるもの」と表現している。彦根城には築城時、敵の侵入を防ぐため、堀に植えられたとされている。近年は消滅が心配されるようになり、2007年に市民が「彦根城オニバスプロジェクト」を結成。小学校などで苗を育て、堀への移植を進めている。また希望者に苗を配布し、市内での繁殖にも取り組んでいる。2010年には中堀(同市尾末町)のオニバスが市天然記念物に指定された。

【彦根通信部・伊藤信司】

えきまちテラスに「小さなびわ湖」誕生

えきまちテラス長浜(長浜市北船町)1階の水族館がリニューアルされ、「小さなびわ湖水族館『オサカナラボ』」としてオープンした。約25の水槽を用意し、琵琶湖や地元の米川などに生息する魚を中心に30種類100匹ほどを展示している。新たに設けた大水槽では、新しく加わった固有種・ビワマスが泳ぐ。ビワコオオナマズやイトコナマズなど3種類のナマズがそろっているのも特長だ。展示は今後も増やしていく予定。

理科の実験室をイメージした作りで、一般家庭でも入手可能な水槽や配線を使っている。展示を管理・運営する近江淡水生物研究所の向田直人所长は「身近にこれだけたくさんの魚がいることを知ってもらい、生物の多様性を守ってほしい」と話していた。

【長浜通信部・長谷川隆広】



「小さなびわ湖水族館」リニューアルオープン